

令和5年度 日本橋中学校 外部評価報告書

評価委員：岩田博委員長、高橋道義副委員長、喜多正隆委員、倉谷通孝委員、郷金二郎委員
報告書作成者：喜多正隆

評価時期 令和6年2月

1 重点目標の評価

重点目標1について

- ・肯定的評価が、生徒約85%保護者も約75%であり、現在の取り組みが全体として高評価されている。個別最適化の学習の取り組みは、試行錯誤の部分もあるかと思われすぐに生徒保護者の評価などに直結はしないが、着実に良い方向へ向かっているものと評価する。
- ・ドリルパークを使用するのであれば、絶対評価を導入して一定のレベルを段階毎に設定すれば個人の習熟に対する評価になると思います。
- ・「確かな学力の定着と向上」を目標にタブレットを使った「ドリルパーク」を活用したマンツーマンの教育指導に期待致します。この際の要点として成績向上が見られた生徒には最大限の激励を送ってください。さらに要点として各先生方の負担にならない工夫も大切です。
- ・保護者の評価より生徒の評価が大切なので、生徒の評価がよいのは何よりです。何事も情報の発信が大事かと思えます。

重点目標2について

- ・設問が重点目標2を評価するにあたりわかりにくいですが、生徒保護者とも高評価を得ている。
- ・『登校の機会に生徒と廊下で会った時、いつでも気持ちの良い挨拶の声が返って参ります。「とても明るい学校の印象と共に「一人一人の生徒の逞しさ」を感じ、特に最近はより強く感じております。

重点目標3について

- ・重点目標2同様、設問が評価するにあたりわかりにくいですが、生徒保護者とも高評価を得ている。
- ・先生方は積極的に取り組まれている様子を感じ取りました。

2 今後の改善に向けた意見

- ・保護者の「否定的否定やわからない」の評価は、学校と保護者のコミュニケーションに起因するとおもわれるので、保護者会、PTA 学年部会等対話の充実、保護者をできるだけ学校に導く開かれた学校へのさらなる取り組みの充実に期待する。
- ・中学生は、1年2年3年と感性が違うと思いますので、学校評価アンケートは1年生に理解しやすい質問にしたらよいのではと思いました。
- ・サプリーノートは、確かに記入の手間はありますが、各家庭では直接先生のお考えがお聞きでき、生徒指導に有効であると実感致しました。今後の日本橋中の基軸として活用に期待致します。

3 その他の意見

- ・評価母数が少なく数%の年度比較には意味がないので、大きく現状をとらえる資料と考える。資料作成は大変と思いますが、よくまとまったものであると思います。
- ・中央区4校のそれぞれのご担当部署の先生方の交流があるとの説明を受け心強く思った所です。一歩進めて、機会があればご担当者の先生から内容について報告に値する事柄がありましたら、ご報告の機会と設けていただけたらと感じました。
- ・下校中の生徒さんを見かける事が多いのですが、暗い表情の生徒を見かける事は一度もないのは良いと思っています。